



11月10日厚木東高校では校内授業研究会が開催されました。本年度の授業研究の「テーマ」は…

生徒が主体的に学ぶことができる環境を整え、生徒の自学力や「学びに向かう力・人間性等」を養成することを目的とし、ICTを活用した授業を展開する。

そして、この授業研究会の企画のねらいは次の4つでした。

- ①生徒の関心・意欲・態度および「学びに向かう力・人間性等」を養うための具体的手立てとして、平常授業の中でのICT活用を促進する。
- ②教科の特徴に合わせたコンテンツ作成・機器利用を目指す。
- ③他教員の授業を参観することにより、自分の授業を振り返り、生徒が主体的に取り組む授業創りに向けての一助とする。
- ④研究協議全体会を通してノウハウを共有し、授業改善を進める。

当日はまず、4時間の授業を教科を超えて『互観』しました。午後からは『教科研究協議（分科会）』で、教科ごとに互いの実践を共有し所定のスライドにまとめました。以下は各教科の様子です。

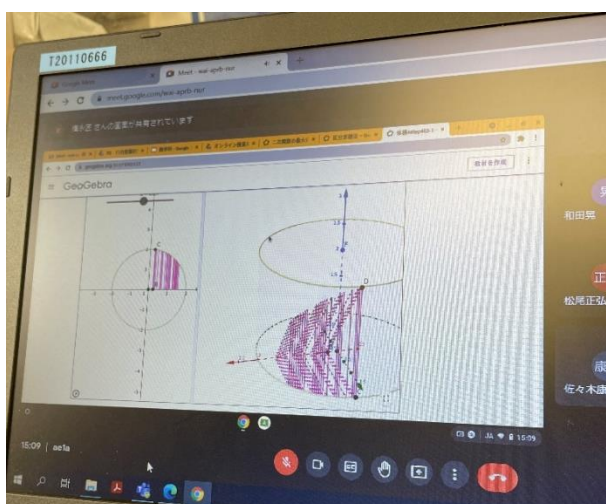




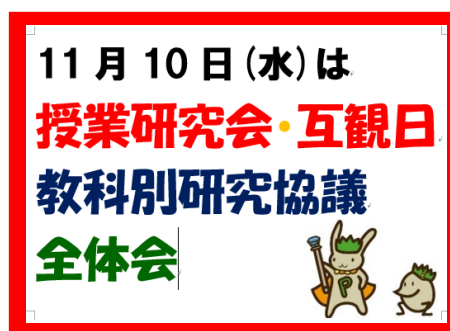
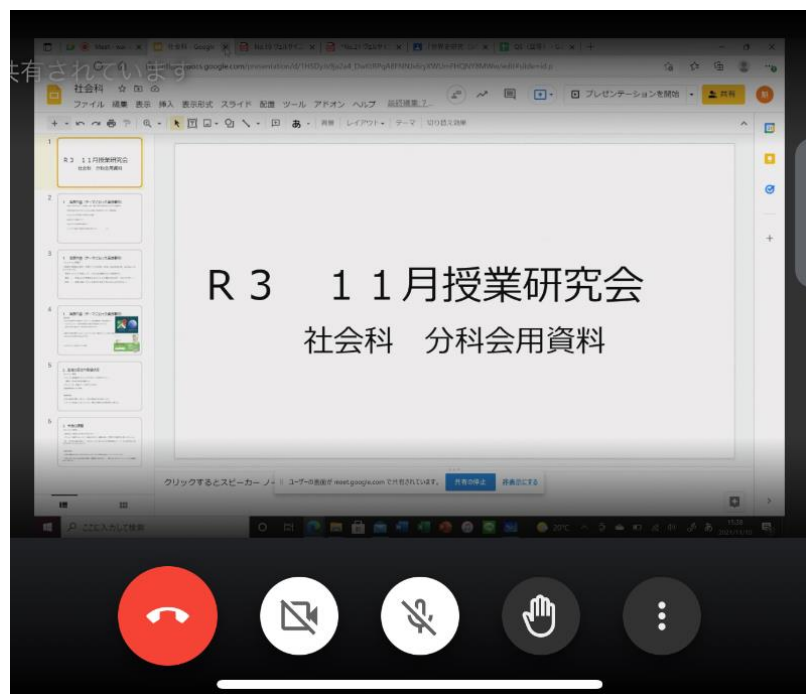
話し合いながら、共有したことをスライドにまとめていきました。

次に、職員室に集まって、『授業研究会（全体会）』を持ちました。Google Meet を使って、画面共有しながら、各教科の代表が順に発表し、各科の取組を全職員で共有しました。

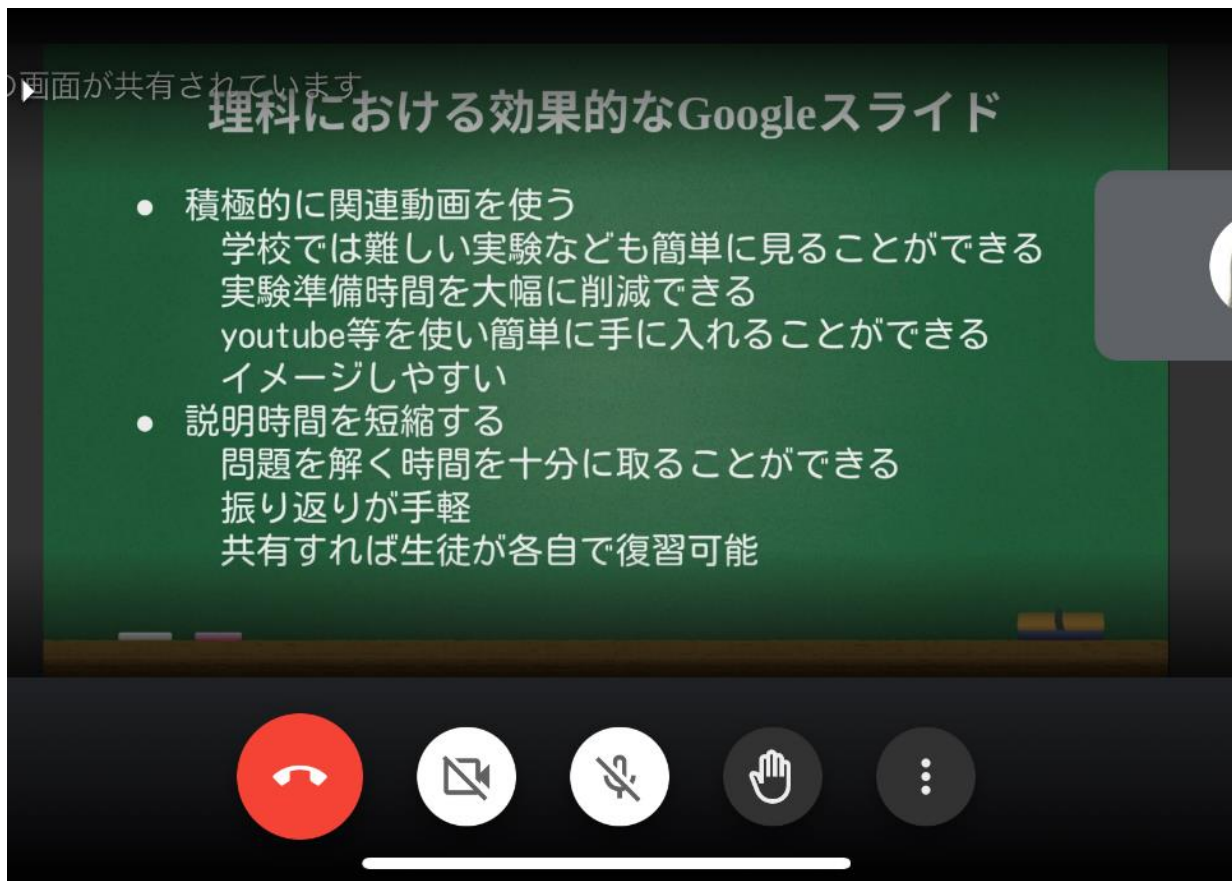
数学科からは、福永先生（数学科新採用・陸上競技部）が、分科会での協議の要点を伝えました。オンデマンド動画の取組や、動くグラフの活用などいろいろなことに挑戦しています。



それぞれの教科が、有効な取組や様々な生徒の活動に活用できるアプリなどの情報を提供し、今後の課題点なども共有しました。



ICT 利活用で生徒の学びにどのような効果が上がっているのかについても、共有されました。



日々仕事に追われる中であっても、このような時間を持ち、教員の命である、「授業力」の研鑽に励むこと、互いに助け合って高めあうことは、大変重要です。教育界にも大きなDX（デジタルトランスフォーメーション）※ の変革の波が押し寄せる今、私たちもまた生徒たちに負けないように、**東高の教師として『変化を恐れず挑戦し続ける大人』**でありたいものです。

下の、リーフレットにありますように、**令和4年度入学生から、県立高校でも一人一台端末が開始**します。本校でも、ただいま機種を選定、ご案内の方法など、検討を進めているところです。保護者の皆さまに、高額なご負担をいただく以上、授業でも、自学でも、最大限に活用していきたいと思っています。小中学校では、すでに一人一台端末を実施していますので、それを経験した新生を迎えるわけです。このこともあってICTの利活用は喫緊の課題です。

令和4年度に神奈川県立高等学校への入学を希望する皆さんへ

## 令和4年度入学生から

# 個人所有による生徒1人1台端末を活用して 学びの充実を図ります



「端末」ってなに？

ノートパソコンやタブレット端末のことです。



りかちゃん



個人所有ってどういうこと？

生徒一人ひとりが、自分の端末を持つことです。学習活動に活用する端末を各家庭で準備していただきます。なお、神奈川県教育委員会では、家庭の経済的な事情等で端末の準備が難しい生徒に対して、学校にある端末の貸出しを予定しています。

※すでに、保護者負担による個人所有の端末を活用して学習している学校もあります。



学びの充実って？

みなさんが高校で行う「探究的な学び」に必要な、データの整理・分析や資料作成などの ICT を活用した学習を充実させることです。

各高校から合格発表までにお知らせする端末の推奨スペックや推奨端末を踏まえてご準備いただけます。推奨スペック等と同程度のものであれば、すでに家庭にある端末を活用いただくことも可能です。購入いただく場合の端末価格は、3万円前半から4万円程度を想定していますが、学校により異なる場合があります。

令和4年度入学生から新しい高等学校学習指導要領が実施され、情報活用能力等を身に付けることが今まで以上に求められます。現在、県立高校では校内 Wi-Fi を整備し、学校に整備した端末とあわせて、生徒の個人所有のスマートフォン等を活用するBYOD (Bring Your Own Device) により学習活動を行っています。今後、新学習指導要領で求められる探究的な学び等において必要なデータの整理・分析や資料の作成などを行うためには、スマートフォンだけでなく、これらの活動をより円滑に行える端末の活用が望ましく、また、高校では、学校の授業だけでなく、日常生活全般に渡って端末を活用して情報活用能力を身に付けることが必要です。

高校では、教科書や副教材のほか授業で使用する電子辞書など必要なものは保護者負担で購入していただいています。

そのようなものと同様に端末も個人所有物としていただくことで、

- ①学校や生徒の実情に応じてOSや機種を選択できること
- ②必要なアプリケーションソフトを入れるなど使いやすくカスタマイズすることが可能になること
- ③学校でも家庭でも端末をいつでもどこでも学習活動等に活用できること

などの利点があります。

なお、各家庭で準備いただく端末や、端末の準備が難しい生徒への端末の貸出し等の支援の詳細については、令和4年3月に各高校で実施する入学予定者向けの説明会等で説明します。

## 1人1台端末を活用した 学びの姿

すべての子どもたちの  
可能性を引き出す

生徒一人ひとりに応じた  
「個別最適な学び」

他者との  
「協働的な学び」

情報活用能力や  
問題発見・解決能力  
などの  
資質・能力を育成

具体的な  
学習活動を  
みてみよう

各自の学びのペースに合わせて課題に取り組み、クラウドをとおして提出するなど、生徒一人ひとりの能力や個性に応じた個別学習を充実します。

各自のテーマで情報を収集し、データを整理、分析して、まとめた表やグラフなどを入れたレポートや発表資料を作成する学習を充実します。

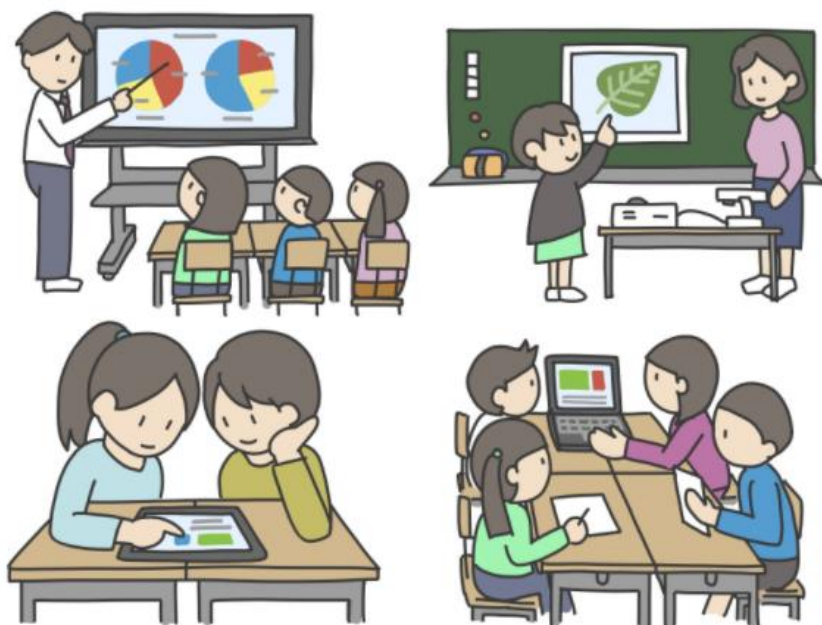
学校だけでなく家庭等でも、情報を検索して整理・分析し、考察する機会を設定します。

「読み・書き・PC」「ノート・鉛筆・タブレット」「タブレット端末も文房具の一つ」という時代がやってきます。

東高は、変革期の真ただ中にあります。これからも教職員一同力を合わせて、未来を生きる子どもたちに求められる学力を育むため、『よりよい授業創り』に努めてまいります。

※ DX（デジタルトランスフォーメーション）：

デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの。



**Go! Atsugi  
East, Go Go!**

